

令和3年度シャープシューティング体制によるヤクシカ計画捕獲結果

1. 令和3年度のシャープシューティングの体制によるヤクシカ捕獲の実施目的

昨年度に引き続き、3年間の試験捕獲で構築したシャープシューティング（以下、SS）体制によるヤクシカの捕獲を実施する。

- ① 屋久島での林道等においてSS体制による持続可能な実施体制を構築する。
- ② 安全が確保され実行可能な実施スケジュールや規模で実施する。
- ③ 誘引状況に応じた捕獲実績を得る。

2. 実施期間

令和3年11月

誘引作業	令和3年11月1日～令和3年11月28日(事前準備：令和3年8月頃から) ※捕獲の3週間程度前から実施
捕獲実施	1回目： 令和3年11月20日～11月21日 2回目： 令和3年11月27日～11月28日

3. 実施場所

捕獲メンバー及びアドバイザーや誘引状況から、以下の2箇所を決定。

- ①小楊子林道栗生支線（黒味林道）：照葉樹林とスギ植林の混合。
- ②小楊子林道24支線：照葉樹林とスギ植林の混合。一部国立公園第3種特別地域

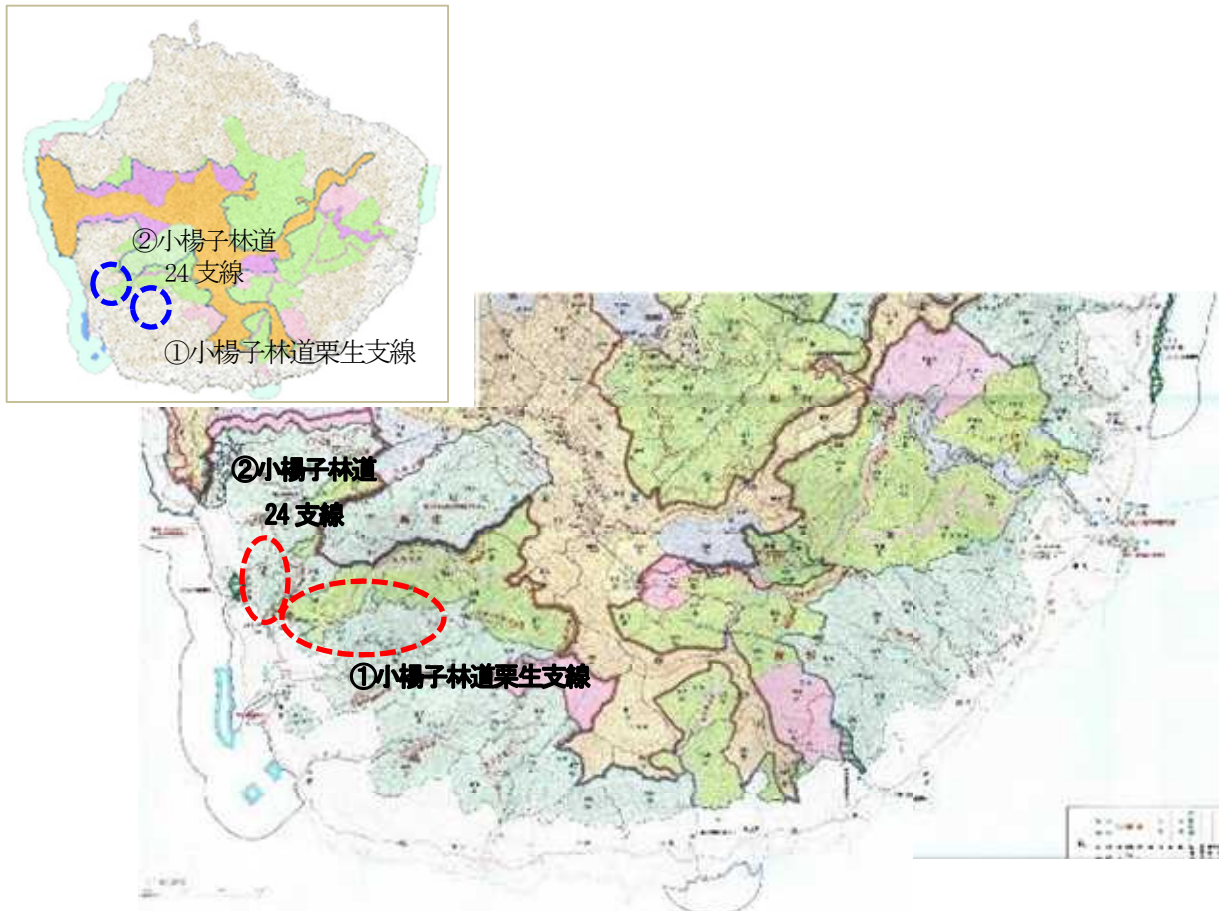
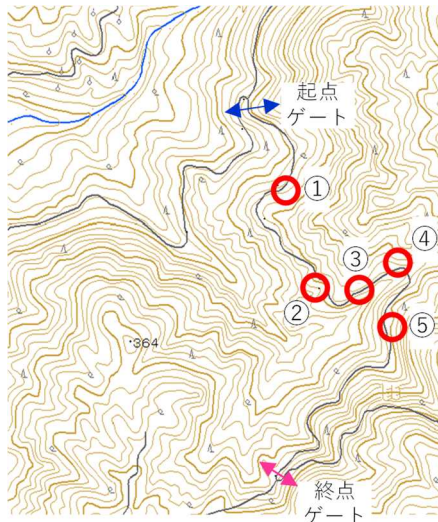
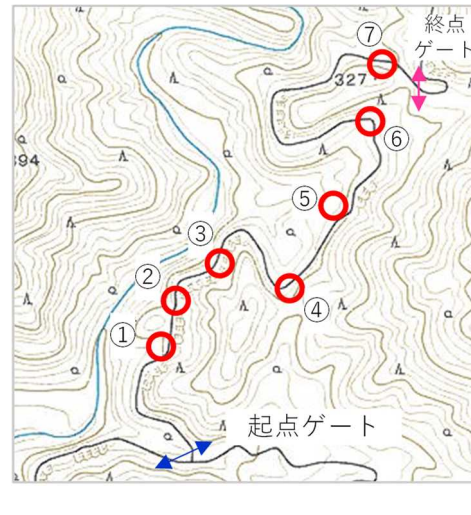


図1 実施林道位置図



小楊子林道栗生支線(黒味林道)



小楊子林道 24 支線 (○: 誘引地点)

図 2: 誘引実施箇所

4. R3 年度捕獲結果 (11/20-21、11/27-28 射手: 猟友会有志)

日付	時間	実施林道	遭遇群れ数	射撃群れ数	捕獲頭数	発砲数	群れ全体捕獲件数	群れ全体捕獲件数 / 射撃群れ数 (全滅率)	射撃群れ数 / 遭遇群れ数 (射撃率)	捕獲頭数 / 発砲数 (成功率)	備考
11/20	11:20 -14:15	小楊子林道 栗生支線	6	5	5	6	4	80%	88.3. %	83.3%	捕獲: ②オス1頭、 ③メス1頭、④メス 2頭、⑤オス1頭
11/21	9:10 -13:25	小楊子林道 24 支線	4	3	3	3	3	100%	75%	100%	捕獲: ②オス1頭、 ④オス1頭、⑤メス 1頭
11/27	11:10 -16:00	小楊子林道 栗生支線	5	1	1	1	0	0%	20%	100%	捕獲: ⑤オス1頭
11/28	8:50 -13:50	小楊子林道 24 支線	3	2	2	3	1	50%	66.7%	66.7%	捕獲: ③オス1頭 ⑥オス1頭
合計			18	11	11	13	8	73%	61.1%	84.6%	合計: オス6頭 メス5頭

小楊子林道栗生支線、小楊子林道 24 支線において実施し、いずれの林道でも捕獲できた。今年度は昨年度と同様、1回目の捕獲から1週間後に2回目の捕獲を実施したが、シカは給餌場周辺にいるものの捕獲車両を確認すると直ぐに逃走してしまう事態が続いたことや、草刈り未実施の範囲に捕獲後にシカがいたことが確認されたことから、射撃率及び全滅率が低下した。このことから、1回目の捕獲と2回目の捕獲の間隔を1週間以上開ける必要性があること、給餌場周辺の地形によっては事前準備の草刈りを広範囲で行う必要がある。

実施にあたっては、関係機関との日程調整、情報共有について調整を要した。今後も引き続き、安全管理や教育されたシカの発生防止を念頭に、関係機関との調整等、作業労力を抑えることや捕獲効率の向上について手法等検討を行う。

5. 捕獲個体詳細

捕獲個体番号	n-1	n-2	n-3	n-4	n-5	n-6	k-1	k-2	k-3	k-4	k-5
個体ラベル	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1	4-1	2-1	4-1	5-1	3-1	6-1
捕獲日	11/20	11/20	11/20	11/20	11/20	11/27	11/21	11/21	11/21	11/28	11/28
捕獲林道	小楊子林道栗生支線						小楊子林道24支線				
誘引地点	2	3	4	4	5	4	2	4	5	3	6
被弾状況	頭部	頭部	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通	頭部貫通
性別	オス	メス	メス	メス	オス	メス	オス	オス	メス	オス	オス
推定年齢	3歳以上	3歳以上	3歳以上	0-1歳	3歳以上	3歳以上	3歳以上	3歳以上	1-2歳	3歳以上	0-1歳
体重(kg)	15.5	16	21	8	16.5	25.5	18.5	29	14	29	9
体長(cm)	64	65	68	48	61	75	62	74	60	68	44
体高(cm)	56	55	62	42	59	60	62	57	52	61	46
胸囲(cm)	60	58	71	48	54	65	67.5	66.5	60	66	45
後足長(左/右 cm)	29/29	29/29	28/28	23/23.5	24/24	27/27	25/24	28/28	25/27	25/25	20/21
後足長つま先まで	31/31	32/32	30/31	24.5/25	29//28	31/31	31/30	32/31	29/29	32/32	25.5/26
枝分(左/右)	0/0	-	-	-	0/0	-	0/0	2/2	-	2/2	無
角長(左/右 cm)	6/5	-	-	-	6.5/10	-	11/12	17/18	-	33/32	無
妊娠の有無等	-	無	泌乳	無	-	胎児1頭	-	-	無	-	-

※参考：今年度の評価について（R3年度シャープシューティング実施計画書より）

捕獲の終了後、関係機関および本事業アドバイザーによりシカの反応、捕獲技術や実施体制等についての結果、成果と課題、次年度以降の改善点なども含め、SS体制によるヤクシカ計画捕獲手法の適性、継続性、加えてアニマルウェルフェアの達成度を評価した。なお、評価にあたっては捕獲数の多寡は考慮しないこととする。また、今年度の捕獲に対する評価は、教育されたシカを発生させないことを主眼に置き、全滅率（＝全頭捕獲群れ数 / 射撃群れ数）を用いる。

6. 評価

(1) SS体制によるヤクシカ計画捕獲手法の適性・継続性

これまで、屋久島におけるSS体制による計画捕獲は、林道上の流し猟形式で行ってきた。誘引に掛かる労力に課題は残るが、SS体制による捕獲は、関係行政機関と連携しながら捕獲場所の選定や実施時期を調整することが可能な手法でもあることから、森林施業や有害鳥獣捕獲が近接地で行われる屋久島では適性が高い手法と言える。

また、本手法の継続性については、捕獲・連絡体制が確立されたことから今後は過年度に実施した安房林道等の中高標高域も含めた国立公園区域内での実施を検討することが適当であると思料。また、今年度は猟友会有志の内、現在1名である射撃手（ライフル銃使用者）が2名に増加したことから引き続き現場作業を通じた人材育成を進めいく。

(2) アニマルウェルフェアの達成度

ほとんどの捕獲個体を1回の狙撃で捕殺しているため、個体に対するストレス負荷は小さかったと考えられる。

(3) 全滅率（群れ全体捕獲件数/射撃群れ数）

射撃群れ数（10群れ）に対して群れ全体捕獲件数は、7群れだった。過年度と比較すると、全滅率は低下した。教育されたシカを発生させてしまったことから、今年度の実施状況を精査する。

